

JR 西日本
津波対策見学印象記

(株)畑村創造工学研究所
代表 畑村洋太郎

日 程： 2011 年 6 月 29 日（水） （28 日～30 日）

見学内容： JR 西日本および周辺自治体の南紀津波対策

見学記作成： 2011 年 8 月 10 日（水）口述

行程

6 月 28 日（火）

14:15 東京 → 15:25 南紀白浜
15:50 旅館（浜千鳥の湯 海舟）着，泊

6 月 29 日（水）

8:30 旅館出発
9:10 紀伊新庄駅 津波発生記念石碑視察
9:30 紀伊新庄駅出発（車）
10:10 白浜駅（特急オーシャンアロー号）
10:59 串本駅 JR 津波取組説明
11:40 串本駅出発
11:50 串本ロイヤルホテル 昼食
12:50 串本町役場 田嶋勝正串本町長と面談
14:00 串本町役場出発（車）
14:30 袋地区南海地震津波標視察
14:50 堀笠島津波避難タワー視察
15:20 上野山防災拠点広場視察
16:00 潮岬
17:50 紀伊新庄駅避難路踏査
18:30 旅館（浜千鳥の湯 海舟）着，泊

6 月 30 日（木）

8:30 旅館出発
9:26 白浜（くろしお 10 号）
11:50 新大阪

1. 見学の動機

昨年（2010年）7月14、15日にJR西日本の餘部鉄橋に見学に行ったときに、JR西日本の紀伊半島での津波対策に話が及び、是非一度見に行こうということになり、それが1年近く経ってようやく実現したものである。なお、この視察は3月11日に起こった東日本大震災を受けて計画したものではなく、ずっと以前から津波対策に対して問題意識を持っていたので、行ったものである。

2. 見学概要

6月28日は16:00前に旅館に到着後、用意しておいた南紀方面の地図を貼り合せて翌日の視察の準備をした。宿は新しいリゾートホテルで、食事もおいしく、サービスもよく、とても気持ちの良いホテルだった。



図1 紀伊新庄駅前にある津波潮位標と海拔と避難場所の電柱掲示

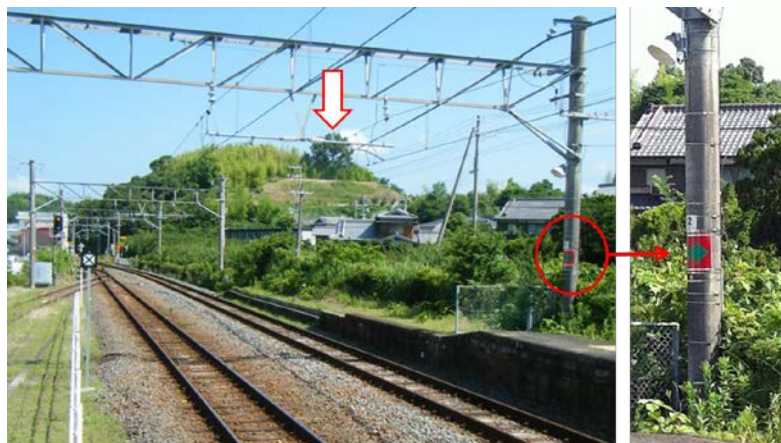


図2 紀伊新庄駅から見た高台の避難場所と避難方向を示す架線柱の掲示



図3 紀勢本線紀伊新庄駅の津波避難経路を示す掲示



図4 串本駅付近の架電柱に掲示された避難方向を示す表示

3 ～ 8 ページは会員エリアに公開しています。

鉄筋コンクリートのビルが遠望された（図 21）が、ここを避難所としているというのは的確な施策だと考えられる。どこまで整備されているかわからないが、NTT のビルの屋上にはおそらく 1000 人程度は避難できるのではないだろうか。外階段が設置されているかどうかは確認できなかったが、建物の両側から屋上まで駆け上がることができるよう、外階段が整備されているとよいと思う。



図21 串本町堀笠島地区の津波避難タワーから町の中心部の津波避難ビル(NTTビル)を遠望

(5) 鉄道線路の避難路遮断

串本町は海に面し、背後に山が控えた狭い地域にあり、高所へ避難す

る際に紀勢線の線路を横切らなければならない。そのために解決すべき問題があるとのことだった。たとえば、軌道内に人が立ち入らないようにするために設置されたフェンスの問題である。

このことを私なりに考えてみたが、いいアイディアが浮かんだ。フェンスに 2m 程度の開口部を作り、ここを落とし込みの柵にするのである。柵は大人 2 人ぐらいで外せるように縦のガイドを設け、50cm くらい持ち上げなければ外せないようにしておけば、いたずらもしにくいだろうし、逃げるときの開口部にもなるだろう。

ここで大事なことは“平時と非常時の区別”をすることである。非常時には非常時の考えを持たなければならない。非常時への対応策が平常時に何らかの障害を起こす可能性があるとするれば、要求機能と制約条件を明らし、必ず設計解はあると信じて解決策を探るべきである。

落とし込みの柵がもし正解だとすれば、早くやった方がよい。

(6) おわりに

以上で南紀津波対策の印象記を終わる。南紀の津波対策の視察を考え始めてから東日本大震災が起これ、津波で大被害を受けた。ことが起こる前にこのようなことを考えておくのがいかに大事ななことかと痛感する。

それにしても今回のような見学を十分に準備し、私が興味深く思っていることを十分視察できるように配慮してくれた JR 西日本の方々にも大変深く感謝している。

真剣に議論をしてくれた串本の田嶋町長にも大変感謝している。いくつかの思い付きを述べたが、ぜひこのようなものを参考にして次に来たるべき津波に備えてほしい。津波が来ないに越したことはないが、本当に津波が来た時にやっておいてよかったと話せるようにしておくべきであると思っている。

以上